

# テムザックが考えるロボットと未来 ～スマートモビリティ RODEM の可 能性について～

川久保 勇次(Kawakubo, Yuji)

株式会社テムザック 代表取締役社長

## 【要旨】

2000年創業以来、テムザックはロボット製造の老舗メーカーとして活動してまいりました。その間、既存のメーカーや業界団体との試練の中、様々なロボットを開発し、実証実験に終わらせない産業としての構築に尽力してきました。

ようやく近年になり、産業用ロボットでもなく、コミュニケーションロボットでもない、働くロボット“ワークロイド”という、人と共存して現場で実際に移動ができるロボットの世界が見え始めたのではないかと自負しております。

弊社ではモビリティ、医療、介護、災害レスキュー、建築、危険現場など人ができない場所や危険な場所、重労働、人手不足を解消する多様なワークロイドをソリューション提案から開発まで手掛けており、これからの未来においてワークロイドの可能性は無限大です。

製品のひとつ「RODEM」は、どんな人も境界なく乗れる真のバリアフリーを目指したスマートモビリティです。自動運転や遠隔操作もできるRODEMを、シェアリング可能なシティモビリティとして活用することで、ユニバーサルデザインの街づくりに寄与できると信じ、実用化に向けた実証実験も実施しております。

今回は、ワークロイドの社会における役割、そして実際に、私たちが開発を進めてきた事例紹介と、スマートモビリティ「RODEM」の動向についてお話しします。